令和６年度「多文化共生のまちづくりワークショップ」

報告書

令和７年３月 13 日

岩手県県南広域振興局
富士大学国際センター

目　　次

Ⅰ　令和６年度「 多文化共生のまちづくりワークショップ」の概要と活動記録
１．令和６年度「多文化共生のまちづくりワークショップ」の概要（中村）
２．令和６年度「多文化共生のまちづくりワークショップ」の活動記録（関上）

Ⅱ　「地域における多文化共生アンケート」（外国人向け）の概要と主な結果（髙坂）
１．目的
２．実施期間及び実施依頼機関等
３．調査対象
４．調査方法
５．アンケート結果
６．小括

Ⅲ　令和６年度ワークショップ参加者へのアンケートの概要と主な結果（小林）
１．目的
２．実施期間
３．調査方法
４．アンケート結果
５．小括

Ⅳ　次年度へ向けた課題（小林）

資料集
１．ワークショップの全記録（中村、関上、髙坂、小林）
２．ワークショップ各回の参加者の記録（小林、中村）
３．調査票

※本報告書作成担当者
中村良則（富士大学経済学部教授、国際センター長）
関上　哲（富士大学経済学部教授、国際センター員）
髙坂紀広（富士大学経済学部准教授、国際センター員）
小林麻美（富士大学経済学部講師、国際センター員）

岩手県県南広域振興局駒木主任、高橋主事にはワークショップの企画・運営において多大な協力を得た。記して謝意を表す。

Ⅰ　令和６年度「多文化共生のまちづくりワークショップ」の概要と活動記録

１．令和６年度「多文化共生のまちづくりワークショップ」の概要

令和６年度の多文化共生のまちづくりワークショップは、令和５年度のワークショップの成果を受けて開催された。令和５年度の取り組みにおいては、参加者全員が多文化共生に関する基礎知識がないところからスタートし、①多文化共生とは何であり、多文化共生を進めるために必要な視点は何かを学習し、②実際的に行える取組は何かのアイデアを出し合い、③多文化共生アンケートの結果を踏まえた活動の総括を本学学生２名が発表するという形で終わった。ここで、多文化共生アンケートとは、本学学生、花巻農業高校生、花南地区在住の一般市民計 1,000 人を対象に行い、有効回答数 630 に達する比較的大規模な調査であり、多文化共生への認知度と主観的意識、地域での多文化共生への期待と懸念事項、日常生活での多文化交流の有無等を統計的に把握することができた。

令和６年度においては、①多文化共生に関する幅広い知見の吸収、②多文化共生に資する具体的な取組の実施、③外国人を対象とする多文化共生アンケートの実施、の３点を目標として設定し、逐次実施していった。

第１回、第２回ワークショップにおいては、中村富士大学国際センター長（以下、中村センター長）より地域における多文化共生の必要性と具体的取組についての意見提出を求めるプレゼンテーションが行われ、県南広域振興局高橋主事より盛岡市、花巻市、奥州市他岩手県内各市町での多文化共生の取組についての紹介がなされた。

第３回ワークショップにおいては髙坂准教授より７～８月に実施した岩手県南地域（花巻市、北上市、奥州市、遠野市、一関市、西和賀町、金ケ崎町、平泉町）在住の外国人向けアンケートの結果報告が行われた。そこでは、在住外国人の多くが技能実習生であるため、日本人との交流機会は限定的であるが、文化交流については意欲的であること、日常的会話や生活習慣等の面で不安があり、特に病院内での医師・看護師の説明や案内には約８割の外国人が不便を感じているとの結果が報告された。

第４回ワークショップは、富士大学紫陵祭イベントの一環として５号館４階を会場として行われた。公益社団法人青年海外協力協会（ＪＯＣＡ）仙台の相澤氏より国際ボランティア活動の紹介がなされ、同時に東南アジア諸国を中心とする民族衣装の展示、様々な国のお菓子をつまむお茶会や海外のボードゲーム遊びなど参加者間で有益な多文化共生の時間を過ごすことができた。

第５回ワークショップでは、今年度のワークショップの到達点と次年度の課題を総括すべく、改めて外国人アンケートの結果報告と今年度のワークショップ参加者向けの活動評価アンケートの結果が報告された。詳しくは「Ⅱ　多文化共生アンケートの概要と

主な結果」に記載しているが、第一に、県内管内在住外国人に向けたアンケートを実施し、多文化共生の取組を検討する上で必要なデータを得られたこと、第二に、富士大学生・留学生、高校生が協働して多文化共生のイベント実施に向けて取り組むことによって、相互の理解と多文化共生の取組のための体制づくりが進むとともに、本ワークショップの認知度が向上したこと、第三に、岩手県国際交流協会『外国人対応事例集』等の資料、ならびに青年海外協力隊の現地での活動状況の報告など、多文化交流の取組の学習が深まったことが今年度の大きな成果であった。

一方、外国人の参加者が絶対的に少ないこともあり、参加者と外国人との直接的なコミュニケーションの不足が大きな課題として指摘された。また、ワークショップ参加者の輪を広げるためには活動日時と活動内容をポスターで掲示するなど学内外へ更に積極的な広報を行うべきであり、活動内容も学生、高校生、外国人などの声に即して進めるべきだとの意見も出た。多文化共生の活動を推進する学生委員あるいは学内サークルを組織すべきとの声もあった。これらの意見は、いずれも正鵠を得たものである。外国人との交流の輪を広げていくこと、ワークショップ参加者の輪を広げ、広く学内に活動内容を周知していくべきこと、学生の主体的活動を支援し、より創造的なワークショップとするため学生サークルを組織すべきこと、こうしたことが次年度以降のワークショップ開催では実現すべき課題として提起されたと言える。

ワークショップの開催場所を学外に求め、ワークショップ参加者が直接に外国人と交流する機会を設けること、このため、外国人を雇用している地域企業や団体、組織の協力を得ること、また、学生の活動を保障するために大学や高校、関係諸機関の理解を得ること等が一つの方策と考えられる。そのうえで、「多文化共生のまちづくり」という本来の趣旨に沿った議論と様々な活動がなされるよう取り組んでいくことが望まれているといえる。

以下、本報告書では、今年度の多文化共生のまちづくりのワークショップの忠実な記録を旨として作成した。

２．多文化共生ワークショップの活動記録

（１）第１回開催内容

５月 11 日（土）に、第１回目の多文化共生のためのまちづくりワークショップ（以下、ワークショップ）を開催した。富士大学学生、院生、留学生、北上翔南高校生、花巻農業高校生、花南地区住民の方々などを含め、参加者は 40 名となった。

第１回目は、県南広域振興局の髙橋企画推進課長から今年度開催にあたっての挨拶を行い、中村センター長が「地域における多文化共生の必要性と課題Ⅱ」というテーマで講演を行った（参考資料①参照）。その中では、なぜ多文化共生の考え方が地域社会に必要なのか、多文化共生の概念や、地域在住外国人数の推移のグラフをもとに説明があり、昨年度ワークショップのフィードバックを踏まえた今年度ワークショップの課題が示され、多文化が地域で共存するということを改めて考える入口となった。

その後、各グループに分かれて多文化共生の地域づくりについてディスカッションを行い、集約意見を発表した。発表では、料理やスポーツなど共同作業を通して互いの文化や意見に関心を持ち、否定せず理解しあうこと、当事者意識を持った行動が重要であるという意見があがった（資料集１参照）。

最後に、花巻国際交流協会の藤原事務局長による御講評をいただき、さまざまな意見を集約する際の注意点や、かつての地域における国際交流の意味は定住外国人支援が主流であったのに対し、今日では概念が広がっているということ等について御発言いただいた。

第１回目は、参加者同士が積極的にコミュニケーションをとりながら意見交換が活発に行われた。それらをもとに次回のワークショップでは、多文化共生のための具体的な取り組みについて、さらに検討し、実行する段階へと進めていくこととした。

【第１回ワークショップの様子】

＜参考資料①＞

2024　第1回多文化共生のためのワークショップ（R6.5.11）

地域における多文化共生の必要性と課題　Ⅱ

富士大学国際センター
中村良則

1

2）多文化共生のポイントと課題

・多文化共生のポイント
　①「互いの文化的差異を認め合う」
　　→互いの文化そのものを知る
　　→互いの文化を尊重する

　②「対等な関係を築く」
　　→文化＋人権や人格の尊重
　　→互いの自立を尊重し、支援する

　③「地域の一員としてともに生きる」
　　→地域の行事や祭りに参加する
　　→地域のあり方を考え、ともに参画する

Ⅱ　R5WSの経験から

1）2023WSの概要
　・全5回実施（R5・5月～10月）
　・延べ参加者115人（富士大生56人、花農6人、花南16人）
　・「多文化共生アンケート」（配付1101、回収830、有効692）
2）特徴的意見
　・多くの人は多文化共生について知らない
　・歌、料理交流、踊り、民族衣装など身近なところから
　・花南の歴史、文化を知る、防災・学童などの取組み
　・病気、役所対応に困難を感じる（留学生）　etc.

Ⅰ　地域における多文化共生の必要性と課題

1）基本的事実と多文化共生の必要性
　・多文化共生とは
　　国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」（総務省）

　・我々なりに解釈すると．．．
　　グローバル社会の進展による定住外国人の増加
　　→「外国人支援」から「共に地域をつくる一員としての受入れ」へ、視点の転換が求められている

2

岩手県の現状（R4.10）

	外国人（人）	総人口比
全国	3,075,213	2.46
県　計	8,374	0.71
盛岡	2670	0.58
県南	3634	0.80
沿岸	1208	0.71
県北	862	0.86

①外国人比率は全国の3分の1
②県南、県北が高い
③出稼ぎ型比率が極めて高い
④米国人比率は相対的に高い
⑤県南はブラジル人が多い

→現状は製造業・食肉・農業分野の出稼ぎ者中心、定住化も
→今後確実に増大。受入準備と積極的拡大の取り組みも必要。

	米国	中・韓・台	ブラジル	東南アジア	その他
全国	2.0	40.0	6.8	35.2	16.0
岩手県	2.6	27.7	1.2	52.3	16.3
盛岡	3.7	35.8	0.4	36.4	23.6
県南	1.8	25.4	2.4	57.4	13.0
沿岸	3.1	18.5	0.0	61.8	16.6
県北	1.5	24.9	0.2	66.5	6.8

4

・多文化共生の課題（今年度の）

①WS参加者が互いを良く知り、地域を知り、地域の文化を知ること。

②具体的な取り組みを行い、共生の実績を残すこと。

③WSの取組みを地域に発信し、共生の輪を広げていくこと。

　⇒・誰もができる・簡単な・共感できる・取り組みを考える。
　　・次回以降のWSで実践する。
　　・本年度の成果発表（10月紫陵祭）
　　・各大学・高校、地域、市民へのfeed back

6

Ⅲ　本日のワークの内容

①自己紹介・「多文化共生WS」への期待
②各班毎に進行（司会）・書記・発表者決定
③各班別に第2回WSでの具体的な取り組みテーマ決定
　・イベント系（料理、衣装、スポーツなど）
　・地域の文化・歴史の学習
　・学童や地域の方々との交流
　・外国人へのアシスト活動（語学学習、各種案内）　etc.
④全体会での決定（複数ある場合、第3回に）
　・第2回WSまでの事前準備の段取り、責任者の決定
　　→富士大学国際センターによる全面的支援

7. 議論し、確認すべきポイント

①多文化共生認識の現状（確認）
・多文化共生認識の程度とその背景(Q3,3.5)
・将来的に望ましい方向は？

②年代別意識について
・多文化共生イメージの評価と改善の方向(Q4)
cf.非ポジティブ評価の上昇をどう評価するか？
・地域での取組（Q10）、今後の交流(Q12)の評価
年代別の各選択肢評価の相違をどう理解するか？
項目的偏りはないか（Q12）？

③留学生との意識ギャップ
・地域での取組に関するギャップの評価と改善の方向
（Q10、Q12）
・トラブルに関する認識の相違をいかに埋めるか？
（Q9、Q11）
・互いの共生の関する意識の状況の評価（Q5、Q7）
・留学生の困っていることへの理解の程度と支援（Q6）
・付き合って良かったことに関する評価(Q7)
cf.「特にない」が高い理由は？

（２）第２回開催内容

令和６年７月 20 日（土）に、第２回目のワークショップを開催した。富士大学学生、北上翔南高校生、花巻農業高校生、花南地区住民の方々などを含め参加者は 25 名となった。

第２回は「多文化共生に向けた知識・課題の理解促進及び多文化交流企画立案」というテーマの下で、主に多文化共生に関する理解促進や知識のインプットと紫陵祭の多文化交流企画立案を行った。

まず中村センター長が「地域における多文化共生の現状」について講演を行った。さらに参加者の理解促進のために、県南広域振興局の高橋主事より、各地の多文化共生の取組について説明があった。

その後、グループワークで紫陵祭の実施を目指した多文化交流企画について話し合いが行われ、さまざまな国の文化を学ぶことができる内容が立案された。そして花南地区コミュニティ会議の鈴木様より御講評いただき、引き続き多文化共生の地域づくりについて皆で考えていくことが大事である旨の御発言をいただいた。

【第２回ワークショップの様子】

＜参考資料②＞

2024　第2回多文化共生のためのワークショップ（R6.7.20）

地域における多文化共生の現状

富士大学国際センター
中村良則

11

Ⅰ　本日のテーマ

①身近な地域での多文化共生の実際を知る

②等身大の多文化共生の取組みを考える

12

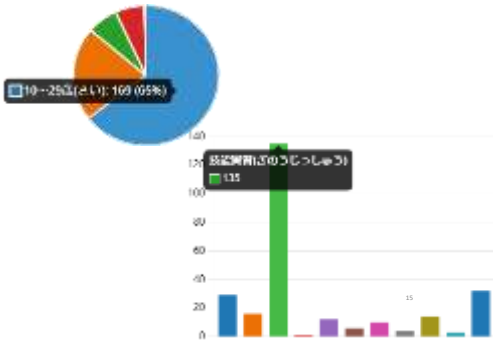
Ⅱ　県南地域の多文化共生の現状

岩手県の外国人数（R5.12）　　単位：人、％

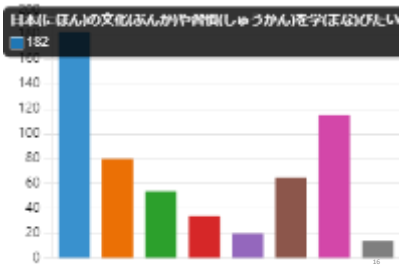
	人数	東アジア	東南アジ	南アジア	ブラジル	英米圏
盛岡広域	3,074	33.2	39.9	6.4	0.4	7.1
県南	4,469	22.2	57.4	2.6	2.2	2.3
沿岸	1,601	16.5	62.1	0.2	0.0	2.8
県北	1,029	17.3	62.4	0.0	0.2	1.8
計	10,173	24.1	53.4	3.1	1.1	3.8

盛岡市	1,997	住田町	133
北上市	1,204	紫波町	123
一関市	1,171	矢巾町	116
奥州市	809	軽米町	95
花巻市	674	山田町	89
釜石市	476	大槌町	78
久慈市	387	洋野町	74
大船渡市	363	岩泉町	66
八幡平市	338	甲石町	62
遠野市	291	九戸村	52
滝沢市	267	西和賀町	43
金ケ崎町	234	平泉町	43
二戸市	214	田野畑村	32
陸前高田市	190	葛巻町	29
宮古市	174	野田村	23
一戸町	165	普代村	19
岩手町	142	県計	10,173

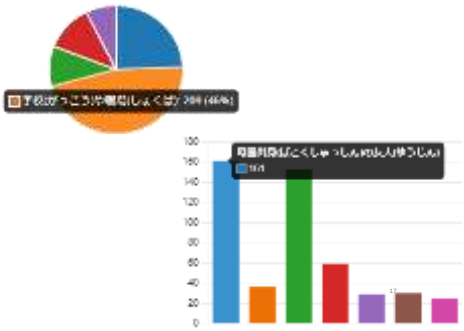
14



15



16



17

・外国人労働者の目的
（1）母国よりも高い給与
　ベトナム　月間平均所得約7,000円
　中国（香港等を含む）　平均月収約140,000円
　フィリピン　平均月収約35,820円　（「外国人雇用状況」）

（2）キャリアアップ
　技能実習---日本の建設業や農業などの技術や技能、
　　知識を開発途上地域などへ移転すること
　特定技能---介護や造船、建設、宿泊、外食などの分野
　　で「相当程度の技能・知識を持つ者」

（3）日本文化への興味、安定した治安など

18

・外国人労働者との交流

（1）現状は、職場での交流が多い（46%（79.7%））。

（2）「日本の文化」、「日本人の友だち」への期待は高い
（それぞれ69.5%、43.9%）。

（3）「日本の友人・知人への相談」割合は高い（57.0%）
一方、「誰に相談したら良いかわからない」、「相談できる人はいない」も少なからず存在（計55人）。

19

⇒県南地域には幅広い年代、国籍の外国人が居住

その中心は、圧倒的に若い、東南アジアの労働者

互いの文化や考え方を知ることが相互の成長にとって大切

⇒できる形での知ること、話すこと、触れあう取り組みを。
互いの興味関心に沿うこと
簡単なこと
地域に人にも受け入れられ、共感を持てるもの
自らの成長にとっても大切なこと　などなど。

（３）第３回開催内容

令和６年９月 21 日（土）に、第３回目のワークショップを開催した。富士大学学生、花巻農業高校生、花南地区住民の方々などを含め参加者は 11 名となった。

ワークショップ前半では、富士大学の髙坂助教授による講演があり、県南地域在住の外国人向けの多文化共生に関するアンケート調査（Ｐ10～17）の結果をもとにした考察に関する話があった。花南地域や北上市の方々から多くの質問があり、多文化共生に対する関心の高さや、岩手県県南地域の市政への反映可能性もうかがえた。ワークショップ後半では、前回に引き続く紫陵祭における多文化交流企画について具体的な話し合いが行われた。

紫陵祭では、富士大学学生、留学生、高校生、地域住民が多文化交流を図りながら、ＪＯＣＡによる講演や、海外のお菓子を取り入れたお茶会や世界のボードゲーム、民族衣装の展示などのブースを用意することとなった。

【第３回ワークショップの様子】

（４）第４回開催内容

10 月 12 日（土）に、富士大学の大学祭「紫陵祭」が開催され、その中で、第４回目のワークショップが実施された。富士大学学生、花巻農業高校生、花南地区住民の方々などを含め参加者は 23 名となった。

第４回目はＪＯＣＡ仙台から講師をお呼びして御講演いただいたほか、これまでディスカッションをしてきた多文化交流企画を実践する場として、ブースを設けて開催する形式であった。

講師のＪＯＣＡ仙台の相澤氏からは、海外協力隊の外国での活動報告と共に、多文化を知るヒント等がクイズ形式でなされ、興味深く海外活動の話題と共に参加者に提供された。講演後、高校生や大学生がＪＯＣＡ活動に参画するための具体的な質問を行っている様子が印象深かった。

昨年度の活動は、外国人を地域で迎え入れるために大学を中心に地域の方々とどのように関われるのかという話し合いが中心であったが、今年度は富士大学としてどのように地域周辺の方々と共に展開できるのかについて、学生・留学生・高校生を交え具体的かつ実践的な活動として展開された。

第１回から第３回までのワークショップの中で出たアイディアを基に、民族衣装(欧州、東アジア、東南アジア等)、お茶会（外国の菓子とお茶）、ボードゲームゲームの３つの内容を企画として行った。

民族衣装の展示では、文化共生社会を象徴するような民族衣装が花巻国際交流協会の御協力の下で展示され、来場者の方々には高校生から各国の民族衣装等が紹介され試着も可能な形で交流が行われた。民族衣装を着込んでいる住民の方々を目にして多文化共生社会を知るためのきっかけとして、衣装を身に付けることは理解促進の一助となったと考えられる。

また、海外の文化を感じられるお茶会とボードゲームのブースでは、珍しいお菓子やボードゲームのルールに戸惑いながらも、参加者や地域の方々がそれらを通じて交流し合っている様子が見られた。

今後、富士大学と花南地区コミュニティの方々と外国からの技能実習生

やその家族を迎え入れるための準備等、多数のヒントを得られたと考えられる。

【第４回ワークショップの様子】

【第４回ワークショップの様子（続き）】

（５）第５回開催内容

12 月 7 日（土）に、第５回目のワークショップを開催した。
富士大学学生、院生、留学生、北上翔南高校生、花巻農業高校生、花南地区住民の方々などを含め参加者は 20 名となった。

第５回目は、令和６年度多文化共生のまちづくりワークショップの最終回と位置付け、富士大学教員２名による今年度活動の振り返り、ワークショップ参加者からのアンケートの結果報告を踏まえて、参加者全員で次年度へ向けた課題について話し合うグループワークを行った。

各グループによる発表の後、県南広域振興局の髙橋企画推進課長から今年度活動の講評を行い、次年度の取組へ生かしていくということで活動が締めくくられた。

【第５回ワークショップの様子】

Ⅱ　「地域における多文化共生アンケート（外国人向け）」の概要と主な結果

1. 目的

令和６年度における「地域における多文化共生アンケート」は、岩手県県南地域を中心とした外国人住人を対象としてその日常生活の状況や考え方を把握し、共生社会を実現するまちづくりを進めることを目的に実施した。

２．実施期間及び実施依頼機関等

「地域における多文化共生アンケート」の実施期間は令和６年６月～７月であった。以下の機関・個人に訪問・依頼をしてアンケート調査を実施した。

・花巻国際交流室
・岩手国際経済技術協同組合
・富士大学外国語教員
・（株）花巻温泉
・花巻めぐみキリスト教会
・北上市地域づくり課多様性社会推進係

３．調査対象

・県南地域（花巻市、北上市、奥州市、遠野市、一関市、西和賀町、金ケ崎町、平泉町）に在住している外国人従業員が在籍している会社・団体
・富士大学留学生
・その他国際交流に係る活動に関係する外国の方や知り合い
・有効回答数：263

４．調査方法

・Microsoft　Forms の QR コードにて入力する方式。
・外国人住民に対する言語上の配慮から、アンケートの言語には、「やさしい日本語」、「英語」、「中国語」から選択できるようにし、日本語にはルビを振った。

５．アンケート結果

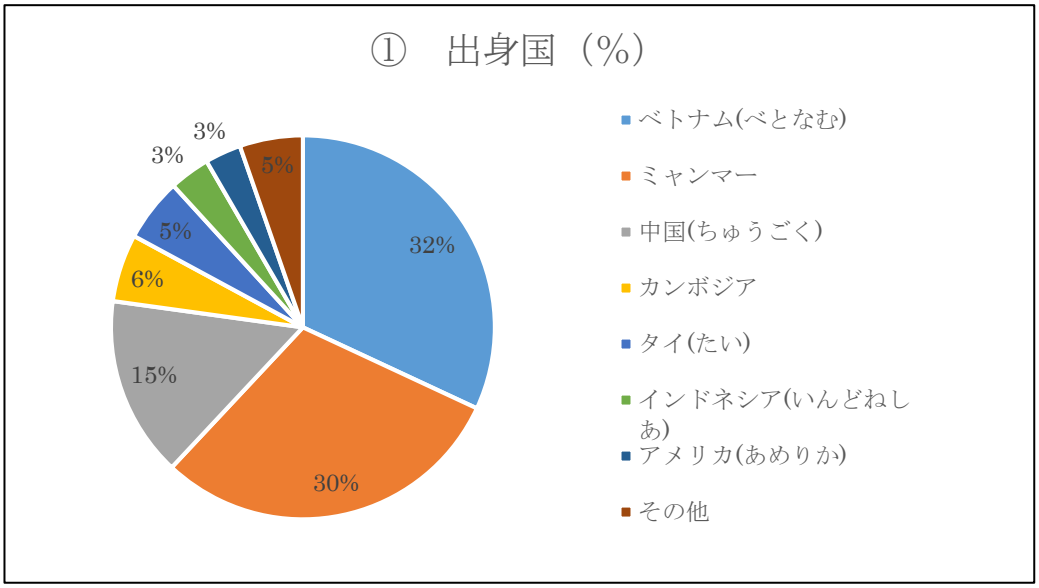
「地域における多文化共生アンケート（外国人向け）」は、県南地域（花巻市、北上市、奥州市、遠野市、一関市、西和賀町、金ケ崎町、平泉町）に在住している外国人従業員が在籍している会社・団体、富士大学留学生及びその他国際交流に係る活動に関係する外国の方やその知り合いを対象として実施し、有効回答数は 263 であった。

本アンケートでは、まず、アンケート対象者の属性を確認し、岩手県南地域における外国人住民から見た多文化共生に係る課題を明らかにし、特に本アンケートでは最後に病院での困りごとについて確認することとした。なお、①～④までは実数値、それ以降は複数回答を認めている等の理由で、割合を示している。

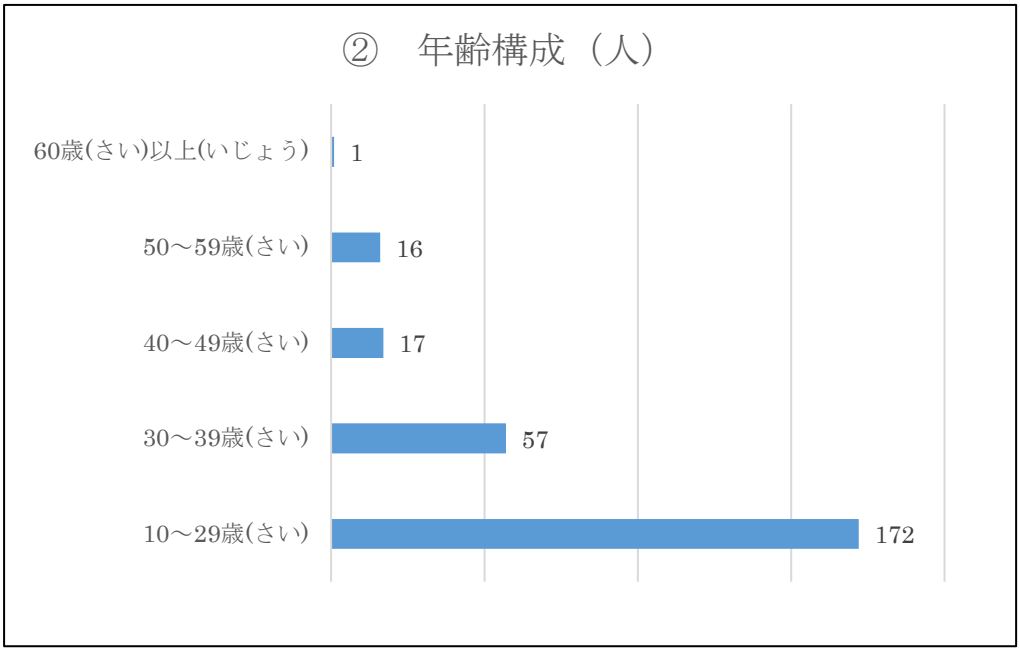
（１） アンケート対象者の属性（出身国・年齢構成）

岩手県県南地域は、東南アジアの国々、特にベトナムやミャンマーから多くの若者（10～29 歳）が来ている。日本国全体における「外国人雇用状況」の届出状況によると、ベトナムが全体の 24.8%を占めており最も多く（厚生労働省［令和７年１月］)、この点は岩手県も同じような分布をしている。本アンケートでもベトナム及びミャンマーの回答者は、全体の 62%であり、特にベトナムは 32%を占めており最も多い。次の（２）「日本に来た目的」とともにこのことを考えると地域における外国人住民の実態が見えてくるであろう。

【問１】あなたはどこの国からきましたか。



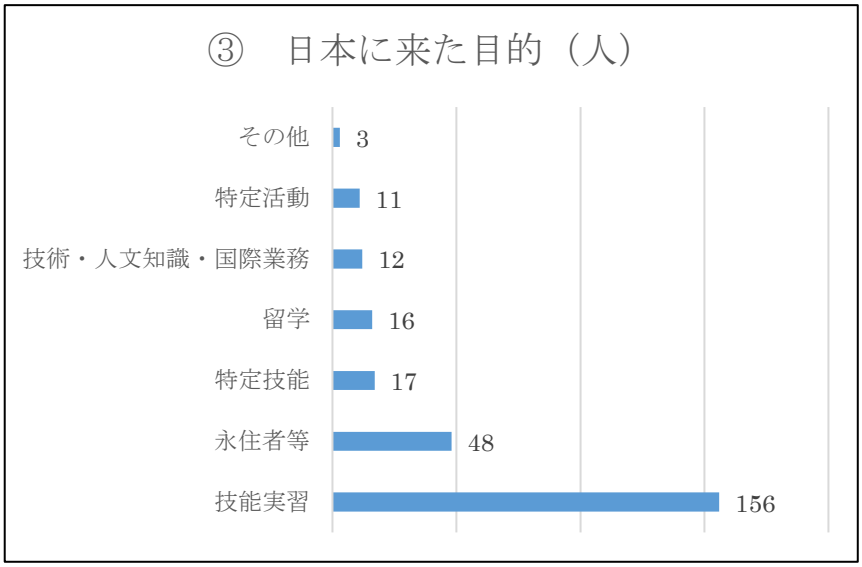
【問２】あなたは何歳ですか。



（２） アンケート対象者の属性（日本に来た目的）

仕事を目的に来た者が多数を占めていることがわかる。割合にして、技能実習に限っても、59.3%であり半数以上を占めている。東南アジアの人々は、日本に技能実習等を目的として入国しており、日本においては技術指導等という国際貢献の意味があるが、少子高齢社会等に起因する労働者不足において欠かすことができない存在になることも考えられる。

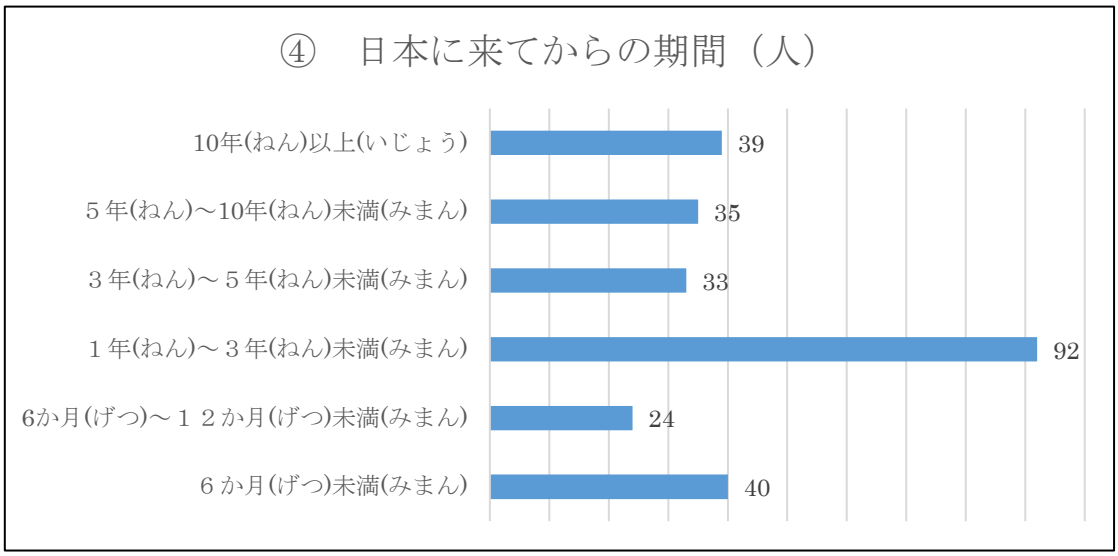
【問３】あなたは何のために日本に来ましたか。



（３） アンケート対象者の属性（日本に来てからの期間）

今回のアンケート対象者のうち、日本に来てからの期間で最も多いのは、１年から３年未満であり、全体の 35%を占めている。５年未満をすべて含めると、71.9%を占めており、大多数となる。技能実習制度は５年を年限としており、このことが関係していると思われる。５年を延長する特定技能実習の制度利用者は6.5%程度（アンケート（２））となっている。

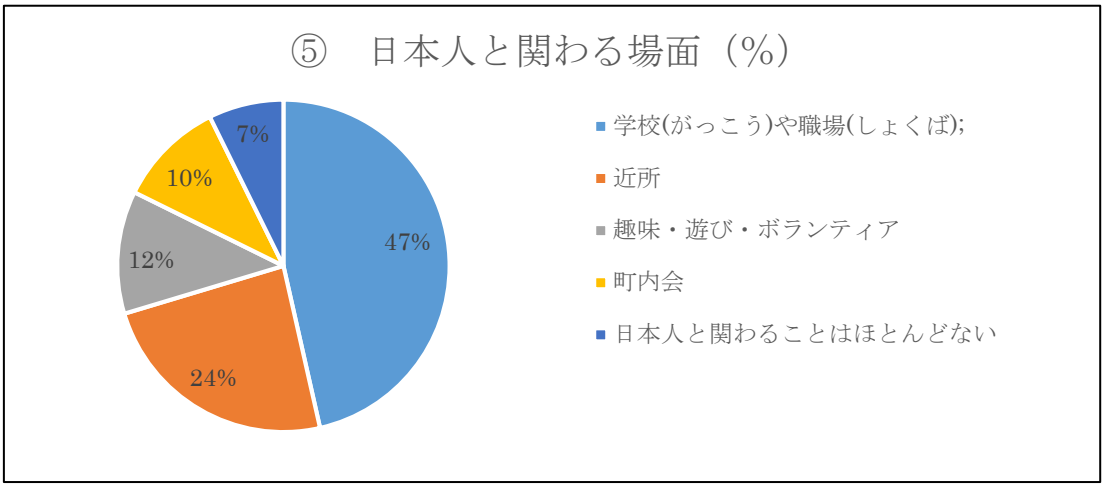
【問４】あなたは日本にどのくらい住んでいますか。



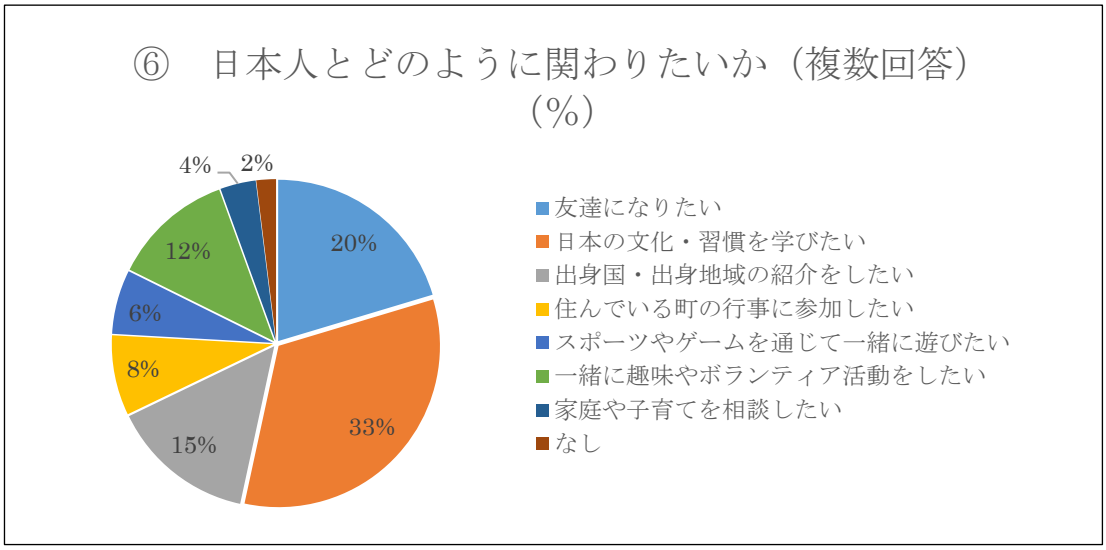
（４） 日本人と関わる場面、どのように関わりたいか、困ったときの相談相手

外国人住民が、日本人と関わる場面の多くは、学校や職場であり、全体の 47%を占めている。一方で、友達になったり（20%）、日本の文化・習慣を学んだり（33%）、出身国等の紹介をしたり（15%）を希望していることが読み取れるが、それらを包括的に行うのは、職場等では十分にできないことが考えられるので、日本人と外国人住民が関わる場面を特別に設ける必要性が示唆されるのではないだろうか。困ったときの相談相手が、母国出身の友人が最も多く（33%）、次が日本人の友人（31%）であり、相談相手としての日本人の友人を増やしたいということにも留意する必要もあろう。

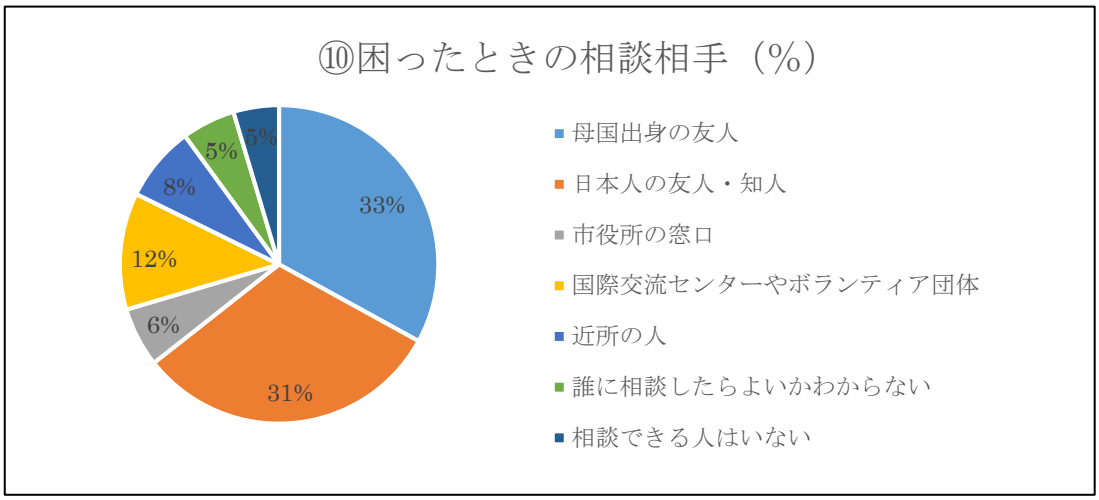
【問５】あなたは日本人とどんな場面で関りがありますか。



【問６】あなたは日本人とどのような関わりを持ちたいですか。



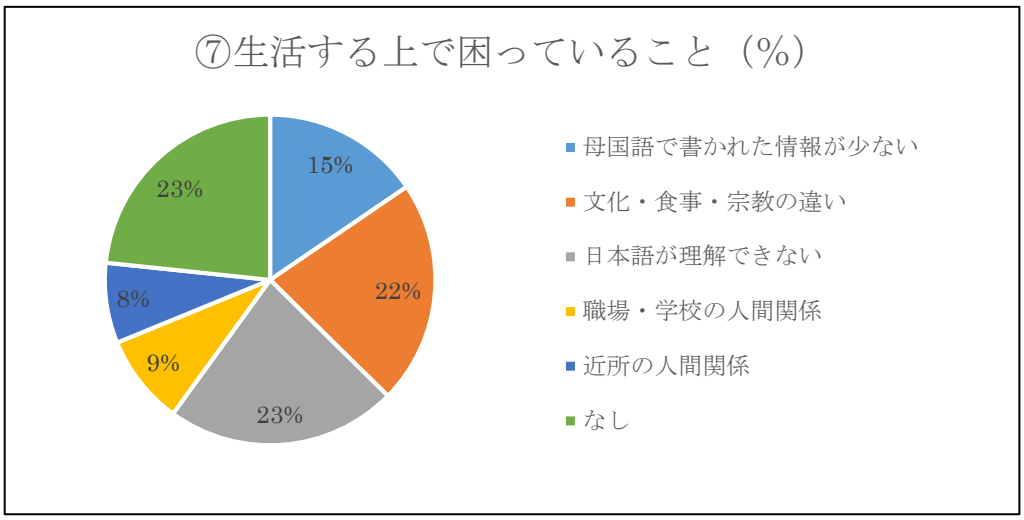
【問 10】あなたは困ったとき誰に相談しようと思いますか。



（５） 生活するうえで困っていること

岩手県県南地域における困りごとの多くを占めているのが、言葉の壁（母国語で書かれた情報が少ない（15%）、日本語が理解できない（23%））であり、次いで、文化・食事・宗教の違い（22%）である。これらの困りごとは長期的には、解決されてくるようにも推定されるが、今回のアンケート対象者が５年という年限が設けられている技能実習生であることにも留意する必要がある。

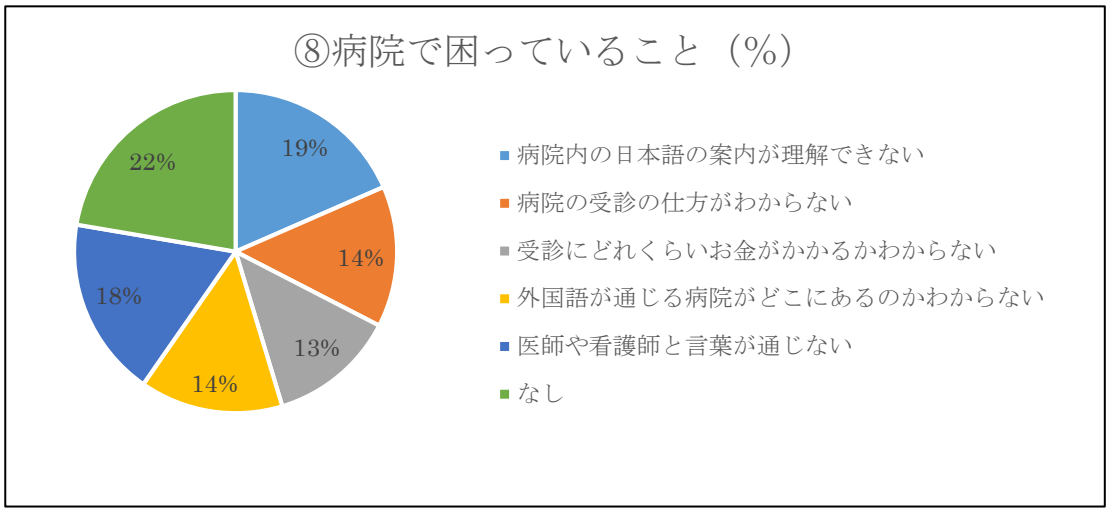
【問７】あなたが生活するうえで困っていることは何ですか。



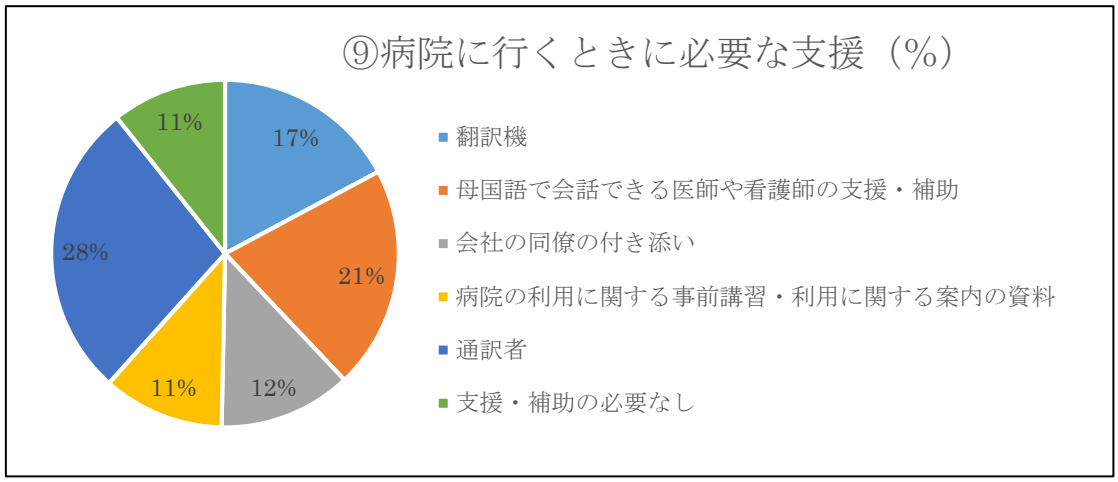
（６） 病院で困っていること、必要な支援

病院で困っていることも言語の壁の影響が多いものと考えられる。具体的には、「案内がわからない」（19%）、「医師と看護師と言葉が通じない」（18%）、「外国語が通じる病院がどこにあるかわからない」（14%）が困りごとになっている。このことが、受診の仕方（14%）や受診料（13%）がわからず、治療等を要すべき人に病院に行くことを躊躇させているとするならば問題である。一方で、「病院での困りごとがない」（22%）とする割合が多いのも特筆すべきところである。そもそも病院に行く習慣がなく、ドラッグストア等の利用によって対処が行えていることが示唆されるかもしれない。また、⑩のアンケートにもあるように、母国出身の友人との間の助け合いがこの割合に影響しているとも考えられる。もしこのような友人が存在しない場合における病院の利用に関する支援においては、語学の壁をどう乗り越えるのかが問われると考えられる。

【問８】あなたが病院に行くときに困ったことはどんなことですか。



【問９】あなたが病院に行くときにどのような支援・補助があるとよいですか



６．小括

「地域における多文化共生のアンケート（外国人向け）」の主な知見をまとめると以下のようになる。

アンケートに協力してくれた対象者は、その多くが技能実習生として東南アジアからきた人たちである。これらの外国人住民たちは日本人と交流を持ちたいと考えているが、その交流の機会は学校や職場等に限られている実態がある。また、言語や文化についての不安を一定程度抱えており、医療に関しては受診段階からの不安が存在する。今回は、病院利用に着目してアンケートを実施したが、ドラッグストア等の利用を含めた健康面の不安に係る総合的なアンケートの必要もあるかもしれない。一方で、健康面には困っていないという人も多くあったが、それは特定の国の人が集中して岩手県県南地域に来ており、同じ母国出身者同士の助け合いがあったとも考えられる。今後、より多くの国籍の人が岩手県に来た時に外国人の困りごとに対応する体制をどのように整えるかは、今後の課題である。

Ⅲ　令和６年度ワークショップ参加者向けアンケートの概要と主な結果

令和６年度の総括として、第５回ワークショップでは参加者が今年度の振り返りを行い、グループワークで意見等をまとめ、共有した。

令和５年度から開始した本ワークショップの主な目的は次の２点である。

（１）異文化理解の必要性の啓発

（２）若者を中心とした市民のコミュニケーションスキルの育成

これらの目的のため、若者が自主的に多文化共生のための研修、考察、イベントへ参画することにより、外国人を迎え入れるコミュニティを形成する能力を培い、地域のまちづくりに活かすことを目指している。そこで、岩手県県南広域振興局と富士大学は、県南地域の若者及び外国人居住者を対象に多文化共生社会を実現するための実践の場としてワークショップを開催し、その成果を地域住民と共有することにしている。

1. 目的

富士大学で行った全５回のワークショップで参加した、花南コミュニティ会議、高校生、富士大学生、富士大学 OB 等の参加者を対象に、今年度の多文化共生ワークショップの総括や次年度以降の課題を明らかにするために実施した。有効回答数は、31 であった。

2. 実施期間

令和６年 10 月～11 月。

3. 調査方法

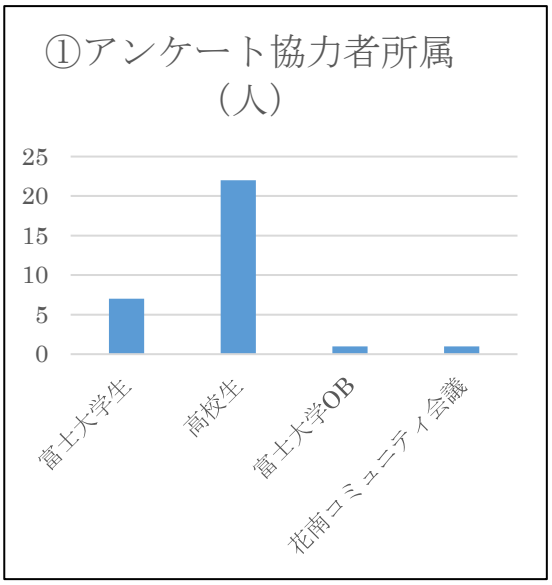
Microsoft　Forms の QR コードにて入力する方式。

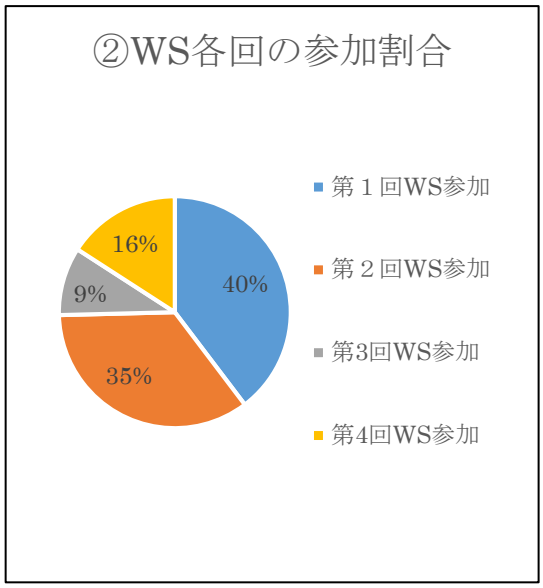
4. アンケート結果

「多文化共生まちづくりワークショップアンケート」は、多文化共生ワークショップの参加者である、花南コミュニティ会議、高校生、富士大学生、富士大学 OB を対象に実施し、有効回答数 31 の回答を得た。なお、①は実数値、②以降は割合で表記し、その他自由記述欄を設けている。

（１） アンケート協力者と参加割合

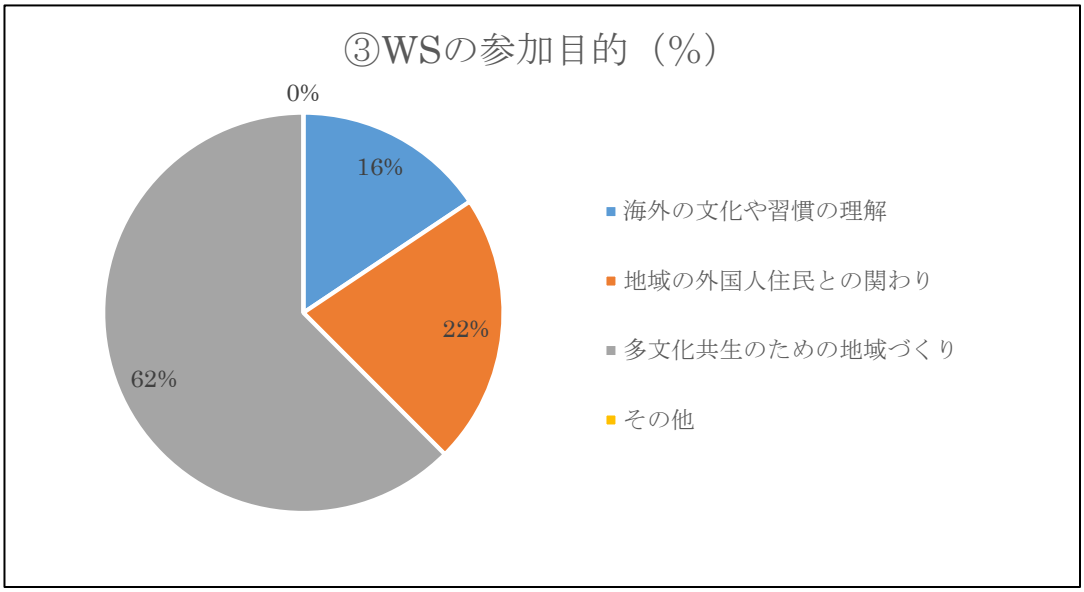
今年度の多文化共生ワークショップは花巻北上地域の高校生が多数参加いただいた。高校の活動等の兼ね合いで毎回参加する学生は少数となっている。





（２） ワークショップの参加目的

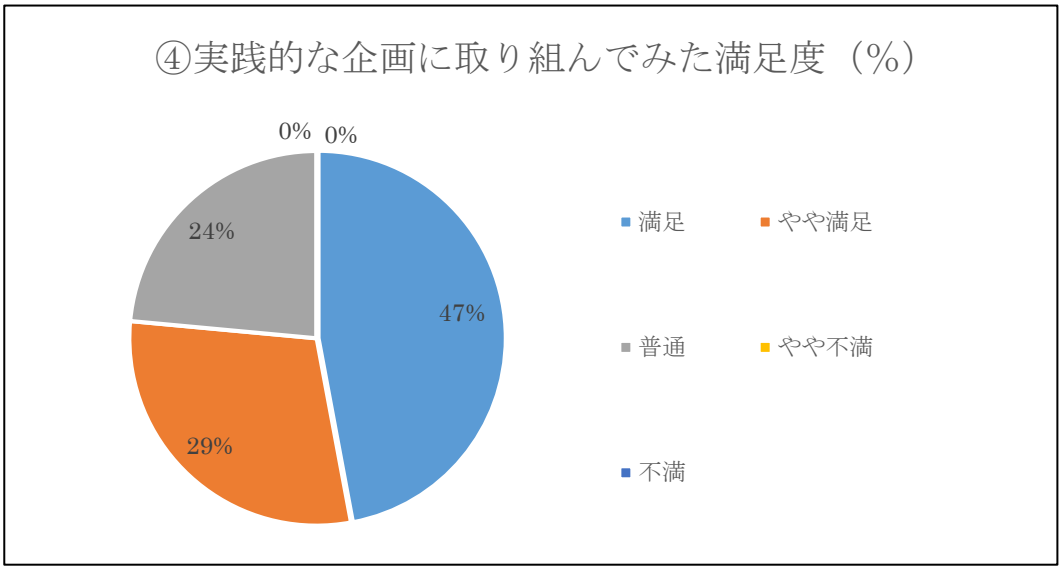
前年のワークショップの成果なのか、今回は、海外の文化や習慣の理解（16%）という回答より、多文化共生の理解を深め、どのように外国人住民と関わるのか（22%）、やそのための地域づくり（62%）に焦点を当てたやや踏み込んだ回答が多かった。



（３） 第３回および第４回のワークショップに関する満足度

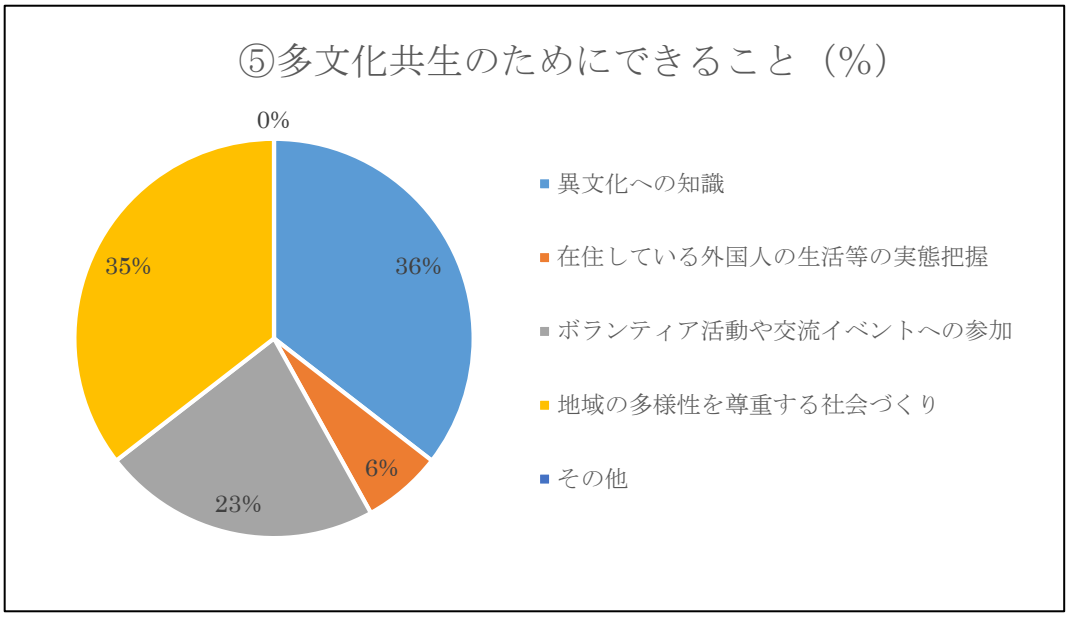
今年度のワークショップでは、多文化共生社会実現を具体的進めるために、どのようなことができるのかを第３回で企画し、第４回に富士大学の大学祭である「紫陵祭」にてそれを実践した。その満足度は、満足・やや満足を含めて 86%であり、一定程度

の成果を得たと考えられる。



（4） 多文化共生のためにできること

⑤は上記のような活動やその他講演等を通して、改めて多文化共生のためにできることについて質問したものであり、異文化への知識（36%）と地域の多様性を尊重する社会づくり（35%）が上位を占めた。知識とともに活動することの重要性が共有されたことが示唆される。ボランティア活動や交流イベントへの参加も23%であった。



（５）ワークショップ参加してみて全体的に感じた感想（自由記述）

以下、自由記述を載せるが、ここでは、高校生、大学生や地域の人たちが一緒になって活動する意義を理解し、ワークショップで話し合いをすることに肯定的な意見が多数あった。今回のワークショップでは、外国人住民との交流はなかったので、その機会がないことを指摘する意見もあった。以下列挙していく。

・もっと多様な人種の人と交流したかったです。
・高校生、大学生はもちろん地域の方や留学生の方と交流できる機会はなかなかないので貴重だと感じました。班ごとに感じたことをまとめたり、発表したりすることで交流の幅が広がり、問題解決に向けて前進できる機会になったと思います。
・違う文化の人とでも話し合えた。
・外国人の文化を知る機会を深められてすごく良かったです。
・多文化共生についての理解やどのようにすれば多文化共生に近づくかについて理解することが出来た。
・多文化交流についての知識を増やすことができて良かったです。
・幅広い世代の人で多文化共生に関して、議論できたことは良かった。
・全体を通して高校生から地域の方々の参加が多くありよかったと思っていますが、実際に他国間の交流がほとんどできなかったことが少し残念でした。
・昨年度はあまり活動に参加できなかったので、今年は異文化のことを知ることができ、良い経験になった。
・一回しか参加していませんが、交流によってお互いの文化への理解を深めていく大切な場であると考えます。
・他国の人と関われたので面白かった。
・初対面の色んな人と話せて楽しかった。海外の理解が深まった。
・異文化を尊重することが大切だと感じた。
・為になりました。
・留学生との交流を通して、日本との文化の違いや物を見る視点の違いを知ることができてとても貴重な体験だった。
・他の国出身の人と関わり他の国の文化を知るきっかけになった。留学生の方が多くいることを知った。
・自分と違う国出身の人や年代の人と話し合う中で海外の文化だったり自分では思いつかないようなアイディアを知ることができ視野を広げることができ良かった。
・様々な人と交流することで、異なる文化を知ったり、経済という専門的な知識を持つ大学生の方の貴重な意見を取り入れることができた。

・話し合いを通じて、いろいろな人の意見を取り入れながら多文化共生への理解ができた。
・異文化共生について考えを深められて良かったです。
・外国人からみたら、私たち日本人との会話や交流があまりないことを知り、伝統的な文化や食べ物を知らないということがあると知りました。なので、積極的に交流していきたいです。
・実際に富士大学の学生さんと交流しながら意見を出し合うことができて良かったです。
・外国の方と交流してみて在日の人たちが感じていることを改めて知ることができて貴重な経験ができたので良かった。
・外国人の人と話せて楽しかったです。
・文化の違いを見ることができた。
・多文化共生についての沢山の意見を知ることができ、充実した時間になった。
・花巻市などの花南地域が行っている取り組みやアンケートの結果から地域に住む外国人の意見を知ることができ、お互いに関わるために必要なことを学べたと思う。
・他文化に対する環境が希薄で、ワークショップでどのように取り組むかが理解されませんでした。現在は職場の海外からの社員、富士大留学生、スーパーや商店での東南アジア系の買い物で出会う程度で本気で考えたことがありませんでした。
・地域に住んでいる外国人が困っていることなどを知ることが出来た。

（6）ワークショップの全体を通した意見

今年度のワークショップは参加者の満足度が比較的高いものとなったが、少なからず反省点も示された。ここでは、ワークショップ開催日時の周知を徹底することや、すべての回に参加するように促すものがあった。その他すべての意見を以下に列挙する（意見なしは記載省略）。

・色んな方との交流があっていいと思いました。もっと沢山の人の意見も聴きたいと思いました。
・もっと外国人との関わりを持つ。
・もっと実践的なことをしたいと思った。
・全体に連絡する必要がある場合には Teams を使ってほしいです。
・大学でのワークショップ以外にフィールドワーク的に多文化交流のイベントに参加しに行く機会を設けても良いのではと思いました。

・一回しか参加していませんが、去年に引き続き貴重な体験ができたと感じます。
・楽しかった。
・第１回しか参加できなかったけど多文化共生のために考えることができた。
・話し合いの中で、異文化の理解や自文化の理解も深まった。
・もっと他の国の人をよんでください。
・留学生との交流する時間をもっと増やしていただければ更に得るものがあったと思う。
・ワークショップの回数ごとにグループを変えずに行えば、より詳しい取り組みが行えると思った。
・事前に活動内容を知りたいです。
・事前に活動内容を知らせてほしいです。
・そのままでいいと思います。
・街について話せる場を設けられて良かった。
・他にも地域に多文化共生を広めていってほしい。
・留学生の方をもう少し中心として取り組んでも良いと思った。
・これから日本の社会は少子化で労働人口に海外の労働者が増えて多文化の共存共栄は避けて通ることが出来ません。このテーマはこれから大事なことであるように思えます。
・意見を出し合って話し合えたのでよかったと思った。

（７）ワークショップの全体を通して行政や大学に取り組んでほしいこと

最後に、今回のワークショップを踏まえて、行政や大学がどのようなことに取り組めば良いのか意見を求めた。ここでは、さらにこの活動の機会を増やすことや、実際に外国人住民との関わりの機会を持つことが挙げられた。その他すべて意見を以下に列挙する（意見なしは記載省略）。

・まちづくりのための取り組みの話し合いや、講義を沢山開催してほしいです。
・外国人と一緒にボランティア活動をしたいと思った。
・月に一度や数ヶ月に一度でいいので、世界の文化などを学べるイベントを開催するべきだと感じました。
・中学生～大学生を対象として異文化とふれあうイベントを定期的に開催して若者に対して興味関心を深めてもらう機会を設けても良いのではと思います。
・他国の文化について、海外の人と絡む機会を増やすと良いと思う。
・海外の人と関われる活動の情報を見られるようにしてほしい。
・留学生受入数を増やしてほしいです。

・がんばってください。
・身近に外国人と日本人が集まれて交流できる場所。
・外国人との積極的な交流。
・ボランティア活動でイベントを作る。
・文化祭以外でも留学生の人と関われる機会を増やしてほしい。
・グローバル社会が浸透して機会あるごとに海外からの人達と接する機会が増えて、必然的に必要不可欠になると思います（市の広報、行政行事、文化祭・紫陵祭取り上げ)。

５．小括

今年度のワークショップは、アンケートを通して外国人住民の意見を把握するという成果があったが、具体的交流は、ごく限られたものであった。この点を指摘する意見が多くあったと考えられる。

参考文献

厚生労働省［2025］「『外国人雇用状況』の届出状況【概要版】（令和 6 年 10 月末時点）（https://www.mhlw.go.jp/content/11655000/001389434、2025.2.10 閲覧）

Ⅳ　次年度へ向けた課題

岩手県県南広域振興局と富士大学による多文化共生のためのワークショップは、今年で２年目となり、「定住外国人の視点から多文化共生を考える」というテーマで多文化交流の輪を広げ、外国人からみた多文化共生に向けた課題の検出と対応ができるような具体的な取組を進めてきた。昨年度の活動を踏まえて、多文化共生に関する日本人と外国人の意識の差異をどのように少なくしていくかを考えてきたが、今年度は高校生、大学生、留学生が協力しながら主体的に大学祭の企画を立案・実行することで、多文化理解のためのコミュニケーションが促進されたと考えられる。

昨年度提示された課題に、「地域づくりという観点から地域に拠点を置く企業との連携も必要」というものがあったが、それに関しては花巻地域の企業に協力いただき、外国人労働者に対するアンケートやワークショップの周知ができた。

しかし依然として、県内では、多様な国籍の人々が関わる機会はそれほど多くないため、そのような機会の創出が次年度の取り組みへ向けた課題である。また、人口が少ない地域における外国の人々とのコミュニケーションの在り方についても検討する必要性が新たに認識されたと言える。

多文化共生のためには、引き続き、本ワークショップの取り組みを共有するコミュニティの範囲を拡大しながら活動していくことが重要である。

＜資料集＞

１．ワークショップの全記録

○第１回：テーマ「第２回ワークショップでの具体的取り組み」

第１回のワークショップ参加者からは、多文化共生の実現に向けた活動として次のような意見が出た。

第１に、各国の文化的違いを共有する機会を作りたいというものである。参加者が共有したい内容を多く挙げてくれた。例えば、日本との宗教やルール等の違いという大きなテーマや、祝祭の祝い方、映像技術、建築様式、料理の味付け、ファッションの違い等を挙げていた。また、現代的なテーマとして、ＳＮＳの利用実態やＳＤＧｓの取り組み等の各国の違いにも興味を広げていた。

第２に、実際に外国住人と共通体験をするというものである。これも参加者がさまざまな体験内容を挙げてくれている。例えば、卓球、サッカー、スキーなどのスポーツ大会を実施したり、バーベキュー、各国の料理等を一緒に作るというものや、さらに、祭りに参加して一緒に踊ったり、外国語で歌を歌いあったり、ゲームをしたり観光を一緒にしたい等のさまざまな活動を挙げてくれた。

第３に、文化鑑賞の機会を設けて、一緒に映画を見ることをしたいという参加者もいた。

以下、当日付箋紙に記入された意見を採録する（２～５回も同様）。

	意見
A 班	「伝統的なスポーツ交流会」「球技」「スポーツを通してさまざまなひとたちと交流が出来るし、もっと仲が良くなると思ったから」「スポーツ大会」「各国の服を着て、各国の歌を流して、各国のスポーツをやる。」 「各国のボードゲーム、伝統的な遊びをする会」「料理交流会、お国料理の交流会、食文化」「各国のサブカルチャーを知りたい。」「言語交流会」 「色々な国のアーティストを集めてライブ」「いろんな国の楽器を演奏し、演奏会を行う。」「年代、国別の流行を知る。」「郷土芸能」「和太鼓演奏、獅子ヶ鼻音楽隊との交流」「自主防災訓練等の実践交流」「服、伝統衣装絵、ファッションショー」「衣服、それぞれの違い」
B 班	「紫陵祭で外国料理を出す」「郷土料理を作ってふるまう」 「紫陵祭でおどる」「各国の挨拶を調べる」 （このための）事前準備→「各国の挨拶や郷土料理を調べる。」「郷土料理を練習する」「みんなで試食→意見交流」「紫陵祭で料理販売、ステージ発表」

○第２回：テーマ「富士大学紫陵祭の企画を考える」

体験型を中心として、さまざまな参加者が一緒に楽しむことができるような企画が多く立案された。

カテゴリ	内容
１食事	「わんこそば」「ハンバーガー」「カレー」
２屋台体験	「駄菓子屋」「スーパーボールすくい」「金魚すくい」「ヨーヨー」「射的」
３伝統文化	「鬼剣舞」「写真の展示」「日本語教室」「手芸教室」「かるた大会」「ボードゲーム」
４スポーツ	「バレーボール」「野球」「バスケットボール」「サッカー」「バドミントン」

○第３回：グループワークテーマ「富士大学紫陵祭における企画決定」

第２回で話し合った企画案を再検討し、当日の状況を予想しながら意見を集約した。

「スポーツ（球技)」「お茶会」「料理」「韓国の遊び」「ステージで踊る」「民族衣装の展示」「ボードゲーム」

○第４回：富士大学紫陵祭における多文化共生ブースの出展

「お茶会」「民族衣装の展示」「ボードゲーム」のブースを企画

○第５回：多文化共生のための WS の主な話し合い内容まとめ

「今年度多文化共生社会のための WS」の活動についてのディスカッションを実施した。

	内容
A 班	・実践的な形としての活動ができた　（一般参加者） ・多様な人と交流できた　（留学生参加者） ・WS から地域の活動につながった　（留学生参加者） ※補足―活動が、他国の言語に対応できていてわかりやすかった ・スケジュールをしっかり決める（不明な点がありわからない点もあった） ・もっと多人数で活動としてゲームができればよかった（人数不足）　（留学生参加者） ・会場の見直しが必要ではないか。告知をもっと増やす必要がある（技能実習生などに、わかりやすいポスターなどを作成する等）（一般参加者） ・多文化活動として交流できるイベント増やしてほしい ・参加人数を増やすなど工夫をしてほしい（認知度を高める） ・WS に国際交流協会の取り組みを組み込んでも良いのでは　（国際フェア in 花巻など） ・花巻市内の観光活動を実施する（留学生＋日本人学生＋市民など）

B 班	・事前に話し合ったことが実践できてよかった ・今後、認知度を上げることが必要である ・次年度への取り組み ・学園祭などでの活動をさらに活発にする必要がある ・もっと話し合いの場を創設する必要がある
C 班	・留学生―言葉の壁があり WS に来ずらかった ・留学生―バングラディシュや中国・韓国の学生の参加が少なかった ・学園祭に外国人の参加少ない ・民族衣装の展示に工夫が必要 ・外国人の参加には、外国人の働く企業にもっと働きかける必要がある ・日本の文化に興味持っている外国人が多いと思うので、「日本文化テーマ」のイベントなどを実施すると良いと思う ・WS 対象者を書くなど、もっと明確に対象者をして宣伝する必要がある ・宣伝ポスターを第九に前もって掲示するなど PR した方が良い ・外国人のコミュニティにもっと宣伝する必要がある ・多文化共生のサークルを作るなど活発にすることも必要ではないか ・日本語を話せない人向けのサポート（通訳等）が必要 ・民族衣装だけでなく日本文化ブースなど設置しても良いのではないか ・在日外国人の興味関心にもっと寄り添う必要があるのではないか ・海外の民族衣装より日本文化をもっと展示すべきではないか

２．ワークショップ各回の参加者の記録

第１回	富士大学学生（留学生含む）16 名 高校生 19 名 花南地区コミュニティ会議 4 名 花巻国際交流協会 1 名 計 40 名
第２回	富士大学学生（留学生含む）9 名 高校生 15 名 花南地区コミュニティ会議 1 名 計 25 名
第３回	富士大学学生（留学生含む）5 名 高校生 3 名 花南地区コミュニティ会議 2 名 北上市 1 名 計 11 名
第４回	富士大学学生（留学生含む）8 名 高校生 3 名 花南地区コミュニティ会議 2 名 一般 9 名

	JOCA 仙台　1 名 計　23 名
第５回	富士大学学生（留学生含む）9 名 高校生　5 名 花南地区コミュニティ会議　3 名 一般　3 名 計　20 名
延べ人数	富士大学学生（留学生含む）47 名 高校生　45 名 花南地区コミュニティ会議　12 名 一般　13 名 講師(花巻国際交流協会･JOCA 仙台)　2 名 計　119 名

多文化共生のための地域社会づくりワークショップの各回の参加人数と第１～５回目までの参加人数の延べ数は上記のとおりとなった。

注）多文化共生のための地域づくりワークショップの参加者人数把握に当たり、学生は事前登録制を第一に、当日出席者については極力実数に近づけた。他の項目についても同様のものとして掲載した。なお、事務局（富士大学国際センター・県南広域振興局）並びに学内関係者、は上記人数より除外した。

３．調査票（県南地域在住外国人向けアンケート）

地域における「多文化共生」（※1）のためのアンケート

【アンケート調査の目的】

岩手県県南広域振興局と富士大学は、多文化共生社会の実現を目指すために「多文化共生のまちづくりワークショップ」（※2）を開催しています。

このワークショップに関連して、岩手県に住む外国人の皆さまの生活に関する意見を知り、さまざまな国の文化や習慣、価値観を理解するためのアンケート調査を実施します。

調査は、無記名で統計的に処理しますので、個人が特定されることはありません。

調査結果は、岩手県のホームページ（Web サイト）で公表する予定です。

本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

令和６年５月
岩手県県南広域振興局
富士大学国際センター

（※1）「多文化共生」とは、「国籍等の異なる人々が、互いの文化的差異を認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと（総務省）」です。

（※2）ワークショップは、岩手県県南広域振興局と富士大学が連携して開催し、（公財）花巻国際交流協会、花巻市、花南地区コミュニティ会議より多大な支援を得て運営されています。

記入に当たってのご注意

・調査票には本人が無記名でお答えください。
・質問ごとに当てはまる解答の番号を選び、○で囲んでください。○をつける数は質問ごとに異なっていますので指示に従ってください。
・ご不明な点がございましたら、以下の連絡先までお問い合わせください。

富士大学総務部総務課
TEL:0198-23-6221（代）　FAX:0198-23-5818　e-mail:syomu@fuji-u.ac.jp

問１　あなたはどこの国からきましたか。あてはまる番号を選んでください。

①中国　②ベトナム　③韓国　④フィリピン

⑤ブラジル　⑥ネパール　⑦インドネシア

⑧アメリカ　⑨台湾　⑩タイ

⑪その他（　　）

問２　あなたは何歳ですか。あてはまる番号を選んでつけてください。

①10～29歳　②30～39歳　③40～49歳

④50～59歳　⑤60歳以上

問３　あなたは何のために日本に来ましたか？あてはまる番号を選んでください。

①永住者　②留学　③技能実習

④特別永住者　⑤技術・人文知識・国際業務

⑥家族滞在　⑦日本人の配偶者等　⑧特定活動

⑨特定技能　⑩定住者　⑪その他

問４　あなたは日本にどのくらい住んでいますか？あてはまる番号を選んでください。

①６か月未満　　②6か月～１２か月未満

③１年～３年未満　　④３年～５年未満

⑤５年～10年未満　　⑥10年以上

問５　あなたは日本人とどんな場面で関わりがありますか？あてはまる番号を選んでください。

①近所

②学校や職場

③町内会

④趣味・遊びやボランティア活動

⑤日本人と関わることはほとんどない

問６　あなたは日本人とどのようなかかわりをもちたいですか？あてはまる番号を選んでください。

①日本の文化や習慣を学びたい

②出身国・出身地域のことを紹介したい

③住んでいるまちの行事に参加したい

④スポーツやゲームを通じて一緒に遊びたい

⑤家庭や子育てについて相談したい

⑥一緒に趣味やボランティア活動をしたい

⑦友達になりたい

⑧なし

問７　あなたが生活するうえで困っていることは何ですか？あてはまる番号を選んでください。

①近所の人や友人との問題

②職場や学校の人との問題

③日本語が理解できない

④文化(食事・宗教など)の違い

⑤母国語で書かれた情報が少ない

⑥なし

問８　あなたが病院に行くときに困ったことはどんなことですか？あてはまる番号を選んでください。

①病院の受診のしかたがわからない

②外国語が通じる病院がどこにあるのか分からない

③病院内の日本語の案内が理解できない

④医師や看護師と言葉が通じない

⑤受診にどれくらいお金がかかるか分からない

⑥なし

問9　あなたは病院に行くときにどのような支援・補助があるとよいですか？あてはまる番号を選んでください。

②母国語で会話できる医師や看護師による支援

②病院の利用に関する事前講習・利用に関する案内資料

③通訳者

④会社の同僚のつきそい

⑤翻訳機

⑥支援の必要はない

問10　あなたは困ったとき、誰に相談しようと思いますか？あてはまる番号を選んでください。

①母国出身の友人

②近所の人

③日本人の友人・知人

④国際交流協会やボランティア団体

⑤市役所の窓口

⑥誰に相談したらよいか分からない

⑦相談できる人はいない

アンケートへのご協力ありがとうございました。

わからないこと、困ったことがあったら、相談してみませんか？

○外国人県民相談・支援センター（県国際交流協会）

https://iwate-ia.or.jp/?p=3-1-consultations

○近くで活動している団体HP

花巻市

https://hanakokusai.wordpress.com/

北上市

http://k-iah.com/kiah/

遠野市

https://www.tono-ecf.or.jp/

奥州市

http://oshu-ira.com/

金ケ崎町

https://kifa.amebaownd.com/

一関市

https://www.ichinoseki-ia.jp/

○日本語の教室

https://iwate-ia.or.jp/?p=3-4-japanese_study_in-class

３． 調査票（令和６年度ワークショップ参加者向けアンケート）

令和６年度　多文化共生のまちづくりワークショップ アンケート回答のお願い

平素から多文化共生についてご理解ご協力いただきありがとうございます。おかげさまで今年度のワークショップも第５回をもちまして総括する運びとなりました。

つきましては、これまでの４回にわたるワークショップに参加いただいた方々や日ごろから多文化共生に携わる方々からご意見・ご感想をお教えいただきたく存じます。アンケート結果について第５回ワークショップで共有させていただくとともに、今後の事業の参考にさせていただきます。

お忙しいところとは存じますが、下記の QR コードまたは次の URL からアクセスして回答いただきたく存じます。期限は、11 月 24 日（日）までにお願いいたします。

なお、ご不明な点等ございましたら、富士大学国際センター関上までお願いいたします。

令和6年度　多文化共生のまちづくりワークショップ　アンケート

ワークショップに参加された御意見、御感想を教えてください。
※内容は、第5回ワークショップで共有させていただくとともに、今後の事業の参考とさせていただきます。

所属 （大学、高校の方は学年までお願いします）		氏名	

1　ワークショップの参加について

あなたが参加したワークショップの回にチェックをつけてください。

☐ 第１回ワークショップ（５/１１）　☐ 第３回ワークショップ（９/２１）

☐ 第２回ワークショップ（７/２０）　☐ 第４回ワークショップ（１０/１２）

2　ワークショップで感じたこと、考えたことについて

ワークショップに関して、あなたが考えたことについて教えてください。

（１）ワークショップにはどのようなこと（学んだり・話し合うこと）を期待して参加しましたか。
当てはまるものにチェックをしてください。

☐ 海外の文化や習慣の理解
☐ 地域の外国人住民との関わり
☐ 多文化共生のための地域づくり
☐ その他

（２）（第３・４回に参加した方のみ回答）実践的な企画に取組んでみた満足度を教えてください。
当てはまるものにチェックをし、その理由を教えてください。

☐ 5：満足
☐ 4：やや満足
☐ 3：普通
☐ 2：やや不満
☐ 1：不満

理由

（３）多文化共生のためにできることはなんだと思いますか。

☐ 異文化への知識
☐ 在住している外国の人の実態把握
☐ ボランティア活動や交流イベントへの参加
☐ 地域の多様性を尊重する社会づくり
☐ その他

（４）ワークショップの全体を通した感想，意見，行政・大学(官学)に取り組んでほしいことを教えてください。

〇感想

〇意見

〇行政・大学に取り組んでほしいこと

～～　ありがとうございました　～～